

文京学院大学 2024 年度入学式  
2024 年 4 月 2 日 仁愛ホールにて

## 入学式告辞

緑が芽吹き、晴れやかな新年度に相応しい季節となりました。本日、文京学院大学入学式を迎えられた新入生の皆様、ご家族の皆様、ご入学誠におめでとうございます。入学までのご努力、またそれを支えてこられた皆様にも心よりお祝いを申し上げます。ここに教職員・在学生一同、皆様を歓迎申し上げます。本日台北駐日経済文化代表処教育部 部長 黄 冠超(こう かんちょう)様にお越しいただき、代表 謝長廷(しゃ ちょうてい)閣下からのお言葉をいただくことは大変光栄に感じております。

さあ、皆さんの新たな物語が始まります。今日はその最初の日です。これから始まる大学あるいは大学院生活に大きな期待をお持ちでしょう。またどなたも少々不安を抱いておられるかもしれません。この 4 年間あるいは 2 年間、皆さんには成長をして頂く期間となると思います。その成長にあたり本学の「建学の精神」について、お話したいと思います。私立大学には、どのような人間を育成するかについて定めた言葉があります。それを、「建学の精神」と呼びますが、文京学院大学の建学の精神は「自立と共生」です。本学院創設は大正 13 年(1924 年)で、今年ちょうど創立 100 周年となります。つまり、皆さんは 100 回目の入学生ということになります。100 年前に、創立者島田依史子先生はこの「自立と共生」という建学の精神に強い思いを込めたのです。

自立することには、様々な意味を含みますが、まず自分の意見を持つことは大切です。あなたはどう思いますか？ という問いに答えを持つということです。そして自ら行動することが重要です。皆さんの身体の外側と内側と考えたときに、外側の多くは皆さんがコントロールできません。例えば天気もそれにあたります。天気で、心が左右されることもあると思いますが、でもどうにもなりません。そのどうにもならないことに左右されない強さを持ってください。100 年前に関東大震災という東京を中心とした大地震が起こりました。創立者島田依史子先生は決意をしてその翌年に 22 歳で本学を創設しました。22 歳です。今年の正月には能登半島地震がありました。本学でも 2 名の帰省中の在学生が被災しました。その一人は被災時に 4 年生で大変な被害に遭われましたが、先月国家試験に見事合格いたしました。とても大変だったとお聞きしましたが、強い気持ちを発揮してくれました。被災地には、ボランティアの方が入って行かれますが、このボランティアには、自発性、自由意志、人に左右されないという意味があります。自立に近い言葉

です。この自立は簡単ではありませんが、皆さんにはどうしても獲得して欲しいことです。その一案として私は一人旅をお勧めします。それも行ったことのない場所、当然、海外も視野に入れて下さい。私自身は19歳の時に自分でお金を貯めてホテルには泊まらずに、車に宿泊しながら10日間ほど、一人旅をして、自分を観ることが好きになり、30歳代で47都道府県とその後25か国に行ってきました。自分でいろいろなことを決めなければならない体験は貴重なものでした。

多くの体験を積むためには多くの決断も必要になります。決断を繰り返し、自分自身を作り上げる姿の集大成が「自立」です。自立は従属からの独立過程であると同時に、自分の立ち位置を知る機会になります。

次は「共生」について考えましょう。自分とは違う考え、行動、感情、そして環境や社会を受け入れることを「共生」と呼びます。一緒に生きていくことです。自分の内側から価値観を相対化して入れ物を大きくすることでもあります。私たちは人と一緒にないと人間らしく生きていくことは難しいです。新しい友人、先輩、教職員との出会いに是非自分から飛び込んで欲しいと思います。人との出会いを繰り返すことによって、今までご自分が思っていた、「この人は真面目な人だな」と言った感覚よりももっと「真面目なひと」に大学で会う確率が高いと思います。その自分の感覚が変わっていくと思います。それによって受け入れる器も広がっていくことでしょう。人間の器のかなりの部分は経験で培われるものだと思います。多くの体験こそが皆さんを大きくするに違いありません。たくさんの人と出会い、自分との違いにも気づき、違う考えの人を受け入れることで自分の入れ物も大きくなります。今まで自分では受け入れることが難しかった、友人にはなり得なかった友人のその部分はあなたの器を広げることで広がります。それこそが「共生」につながると思います。

自立すること、共生することは人との関係で育まれます。そして、皆さんにとっての自立と共生に根ざした、大学生活4年間あるいは大学院生活2年間は、先ほども申し上げた、今日から始まる「物語」であり、主人公は皆さんです。こういった物語を作っていくかは、何と言っても皆さんにかかっています。皆さんの決意次第で物語は大きくも小さくもなります。あまり今までに出会わなかったような方々、例えばもし皆さんのご友人に海外の方が少なければ、海外の方とも是非出会ってください。多くの留学関連プログラムも用意しております。自分の可能性は「無限」だと思って、大学をフルに活かしてください。今、無限と申し上げましたが、無限か

なあ？と疑問に思った方は、その答えを是非大学時代に確かめて欲しいと思います。

もうひとつ、私の申し上げたいことがあります。それは自分を客観視する能力を高めて欲しいということです。例えば自分が何かに左右されて気持ちを上げたり、下げたりする、そういう自分に気が付くことです。自分自身を知る一つの例ですが、電車に乗って座っていたら、高齢の方が自分の前に立った時に、皆さんはどのように思うことが多いでしょうか。「立って席を変わろう」、「自分は疲れているから座っていよう」、「隣の人が立たないかなあ」と頭で考えている自分を知ることなのです。そういう自分を知る。自分を見つめることができるようになることが、何が正しいのかを決めることができるようになる大事な能力だと思います。

何かをしてしまった自分に後悔することは今までにも恐らくあったことでしょう。もちろん私もそうです。でもそれを続けたい自分がいるのか、続けたくない自分なのか、ということを感じて欲しいと思います。たくさんの感じる機会を作ってください。感じることは、「選択の幅」を広げていくと思います。この大学、大学院生活では成功も失敗もともにあるはずです。両方とも経験することで器が広がることになると思います。どうですか皆さん、この大学生活、面白い大学時代にしたいですか、それともつまらない大学時代にしたいですか。聞くまでもありません。ただし、面白くするのはあなたです。

皆さんが卒業する時までの間、積極的に自分を変化させて欲しいと強く願っています。そしてそれは、皆さんの思いと決意次第で実現することが可能です。体験を通じて自分自身の成長を作る皆さんの「物語」が今日から始まるのです。あなた方が主役なのです。大学の教員、職員は皆さんの物語を支えるために全力を尽くしてまいります。私自身も皆さんの応援団だと思っています。新しい自分を作るために、新しいあなたを作るために、楽しく充実した大学生活を送ってくださるよう心より祈念致します。

最後に、改めて新入生の皆様のご入学を心から祝福申し上げます。

本日はまことにおめでとうございます。

文京学院大学

学長 福井 勉